

平成24年度 中国四国ブロック保健師等研修会

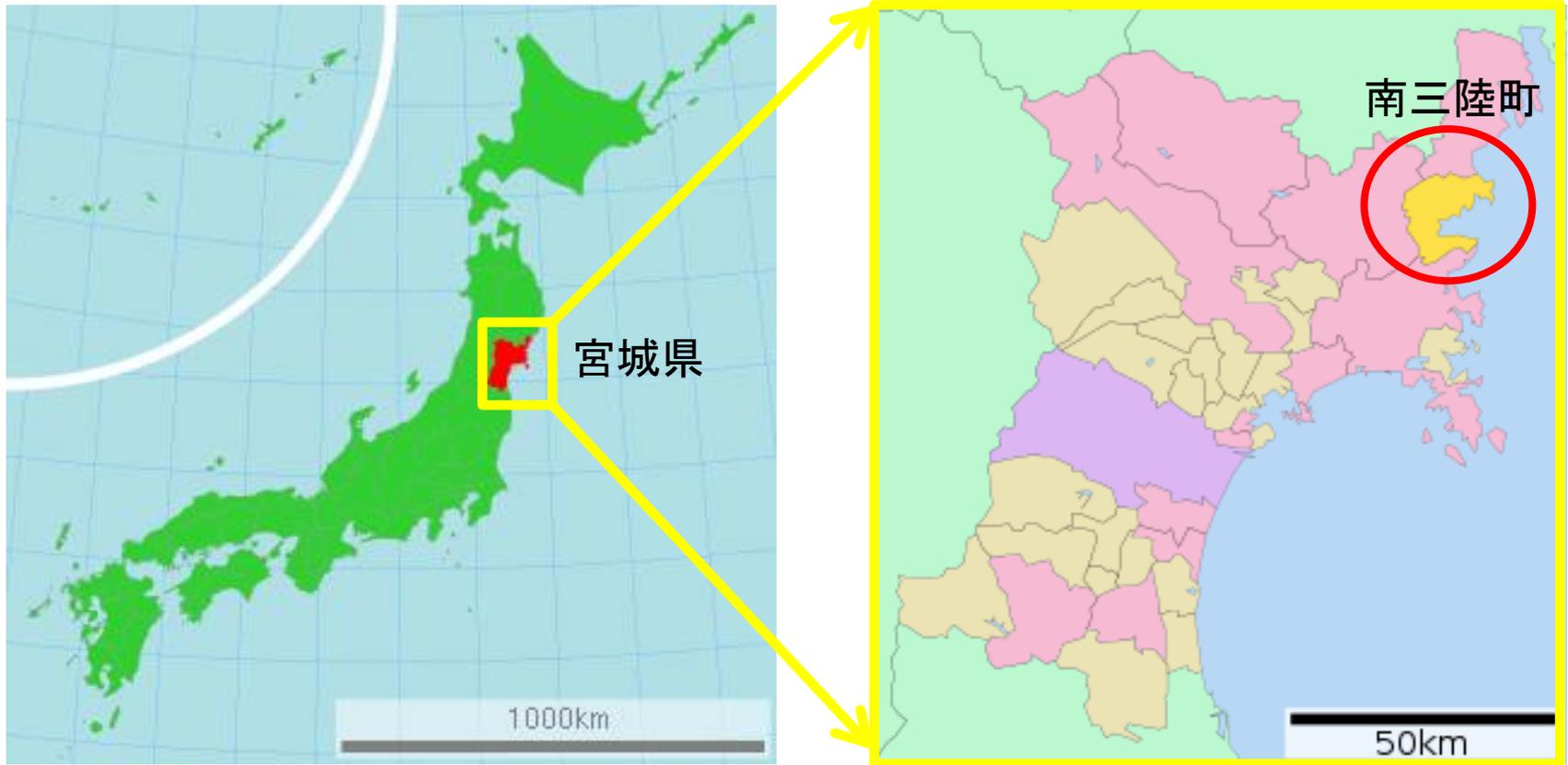
「東日本大震災の教訓から学ぶ
平常時の保健活動」
～大震災に備えて～

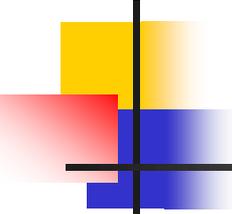
南三陸町地域包括支援センター
高橋晶子

(平成24年9月6日発表)



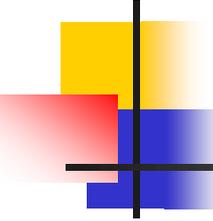
南三陸町の位置





高齢者人口

	平成23年2月末	平成24年3月末
総人口	17,815人	15,352人
うち高齢者数	5,215人	4,392人
高齢化率	29.3%	28.1%



東日本大震災発生

■ 平成23年3月11日午後2時46分頃

地震発生 マグニチュード9.0

震度6弱(南三陸町)

そして・・・大津波

- ・死者 572名(※)
- ・行方不明 238名(※)
- ・建築物被害7割(住宅被害3,311戸)

※平成24年7月31日現在 警察発表



街は壊滅状態

歌津地区市街地



志津川地区市街地

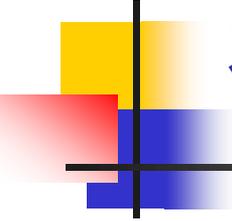


防災対策庁舎



3階建て建物の上に車が...





被害の概要

- **15mを超える津波**により、海岸沿いの市街地、集落、漁業施設、農地、基盤施設等が壊滅的な被害を受けた。
- **町役場**も津波におそわれ、**施設や職員に甚大な被害**が発生した。
- **幹線道路、鉄道**が津波被害で**寸断**され、**河口の橋梁が被災**するなど、直後の交通手段が確保できなかった。
- 地震による地殻変動により、**約70cmの地盤沈降**が起こり、**満潮時や台風時の浸水**が発生している。

被害の概要

(医療・保健・福祉関連施設)

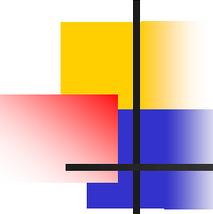
- 医療機関すべてが被災（病院 1 ・ 開業医 5）
- 公立志津川病院（69名死亡）
- 特別養護老人ホーム慈恵園（39名死亡）
- 保健センター・地域包括支援センターが被災
- 居宅介護支援事業所・・・4箇所
- 志津川デイサービスセンター（11名死亡）
- ヘルパー事業所・・・4箇所
- 訪問看護ステーション・・・1箇所

救助・救護活動

- 開業医・看護師・ヘルパー・養護教諭・保健師が救護活動開始
- 寒さ・暗闇・空腹・余震の中の救護活動
- 医療機器・薬のない救護活動
- 地区での壮絶なる救助・救護活動
何も無い中での救護活動



今一人ひとりができることを

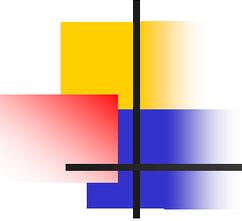


避難所では・・・

- 地域住民が声を掛け合い無事避難した方が多数
（寝たきり・認知症高齢者・独居等）
→日頃の訓練・防災意識の高さ
- 町民の顔が見える避難所→認知症や独居・障害の方の把握・サポートがスムーズに
- 町民・保健師・地域包括支援センター職員の役割分担・情報提供などがスムーズに

町民同士の支え合い

自治会組織の強さ・認知症サポーター

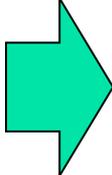


地域では・・

- 道路の遮断 ・ ・ 孤立した高齢者もあり
- 電気 ・ 水道 ・ 通信手段なし
- 町民による避難所運営
- 民家に何家族が避難
- 地域の看護職が避難者の健康管理を
- 薬 ・ 食糧 ・ 物資の不足
- 民生委員等が医療チームの案内役に

要援護者の避難状況と課題

- 医療依存度の高い方は早期に緊急入院
- 町内民家避難
 - 長期間の避難困難
 - 在宅介護サービス利用困難
- 町外家族への避難
 - 環境変化・介護の不慣れ
- 被災していない家の孤立化
生活を支える環境の激変

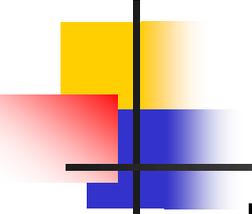


施設入所の
希望者増加



発災直後の保健師活動

- 役場の機能不全⇒指揮命令系統なし
- 保健師は、避難した場所で各自の判断での活動⇒救護活動中心
- 保健師9名⇒保健センター 6名(4名育休)
地域包括支援センター3名
(実働5名・内3名が被災)
- 医療統括本部医師の指示の下活動
(保健師派遣第1陣まで)



保健師活動における課題

- ガソリンの不足・移動車両の不足
- 限られた通信手段
- 住民基本情報・介護保険情報等すべての情報を失う
- 保健師の活動拠点なし
- 地元保健師の分散⇒組織としての機能失う
- 保健師自身が被災⇒避難所生活
- 避難所の状況把握困難



全国の保健師チームの 応援を受けて

- 3月19日～9月30日まで

延べ 4,785人の派遣

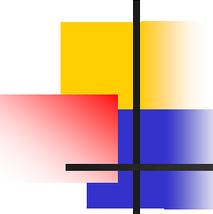
香川県・松山市・熊本県・熊本市・高知県

高知市・兵庫県・宮城県保健所・市町保健師

- 3月19日～岡山県心のケアチームの派遣

精神科医療開始・避難所・地域の巡回開始

- 医療ミーティング・保健師ミーティングの開催



保健師の専門性発揮

- 兵庫県保健師チームにより活動拠点の提供
- 地域住民の健康調査(ローラー作戦)の提案
- 地域が見えるよう地区別のマップを作成
- 地区担当制により健康調査・地域の状況把握
- 各避難所の把握・感染症予防対策・健康管理指導等実施

医療ニーズから

公衆衛生活動へ

- ノロ発生が点在してきたため医療チームと同時並行し、避難所の保健指導強化
- 不足物資（紙皿、紙コップ、割り箸、ディスポ手袋、ジェル消毒、ハイポライト等）の配達強化
- がれき撤去の際の粉じん・作業時の外傷予防
- 手洗い用給水タンクの確保・トイレの清掃状況確認・指導・・・水の確保

※なんでもやります隊の協力（宮城県災害保健医療支援室からのボランティア派遣）

保健活動チームテント (関西広域連合提供)



地区別マップ作成

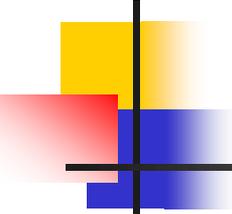


保健活動ミーティング



派遣保健師チームによる訪問





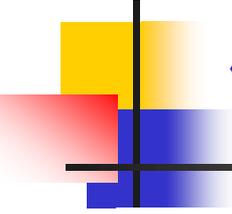
仮設住宅等の状況

仮設住宅入居者の状況

	建設戸数		契約状況	
	地域数	世帯数	世帯数	人数
南三陸町内	52	1,709(77.9%)	1,686(77.8%)	4,744(81.6%)
町外 (登米市)	6	486(22.1%)	480(22.2%)	1,069(18.4%)
合計	58	2,195(100%)	2,166(100%)	5,813(100%)

民間賃貸住宅契約数 621戸

※平成24年5月29日現在



仮設住宅での保健師活動

仮設住宅入居者の全戸訪問

健康状態・生活ニーズの把握

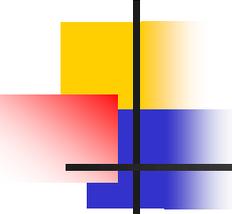
生活不活発病予防の啓発とチェックリスト



世帯台帳の整備

仮設住宅ごとに課題を整理

(※全戸訪問時、生活役立ち情報を配布)



仮設住宅入居後の課題

- 構造上の課題 ・ ・ 120件以上の住宅改修 ・ 相談
- 生活環境の変化 ・ ・ 仕事 ・ 役割の喪失
不眠 ・ 不安 ・ アルコール問題等
生活機能低下者 約3割⇒介護保険申請1.8倍
- 治療中断者の増
- コミュニティの崩壊による孤立化
- 子供の遊び場所なし
- ボランティアによる過度な支援 ・ 物資配布

めまぐるしく変化する

保健師の活動内容と期待

- ①医療ニーズから公衆衛生活動へのニーズ
- ②要援護者の継続訪問
- ③一次・二次避難所での環境把握・衛生指導
生活不活発病の調査
- ④医療チーム撤退に向け、引き継ぎ開始
- ⑤仮設住宅健康調査
- ⑥福祉避難所設置・福祉仮設住宅の建設準備

生活環境の変化により健康課題が変化⇒優先順位

南三陸町の保健事業の 再開に向けて

①

- 課内・係内の打ち合わせ会議が開催困難
（配属部署での業務が困難・人員不足）
- 保健師の業務分担の限界⇒係を超えて
- 予防接種・乳幼児健診⇒県内保健師の応援
- 町内居宅介護支援事業所の被災⇒地域包括支援センターが施設入所調整窓口
- 介護保険事業の復活⇒各事業所の被災状況・再開意思の確認・内陸事業所へのケース移動

南三陸町の保健事業の

再開に向けて

②

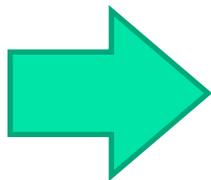
- 宮城県・保健所保健師の派遣
(3月18日より交替で支援にあたる・地元保健所の支援として登米保健所等が支援に)
- 5月よりリーダー的保健師の継続派遣
地元保健師との協働により調整的役割を担った。
(7月県の人事異動により派遣終了となる)

南三陸町の保健事業の 再開に向けて③

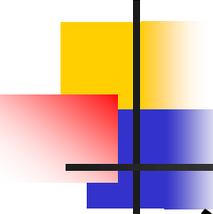
- 兵庫県保健師の派遣延長

(H23・10月～H24・3月)

- ⇒
- 保健師活動への助言
 - 地元保健師の心のケア
 - 保健福祉活動の後押し
 - 保健師の人材育成

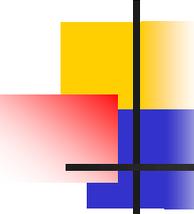


今後の保健師活動の大きな力となった



災害時の活動から感じたこと

- 通常業務の積み重ねが重要・・地域とともに
地域とつながる・保健・福祉・医療とつながる
日々のつながりが 非常時に力を発揮
- 災害時の応援はたくさんあるけれど・・・
まずは自分の地域を自分達で「みる」ことが
重要⇒地域に出る・町民とかかわる⇒施策化
- 業務分担制の限界
- 日常のあたり前の生活が重要
(住居・仕事・遊び場・買い物・役割・・・・)



生活不活発病対策を切りに

①全町民「生活機能調査実施」

⇒約3割機能低下

②町長が町を挙げて「生活不活発病予防」
に取り組むことを明言⇒「町職員研修会開
催」⇒「町議会議員の実態調査」

③町全体で現状を理解し、町全体で活発化
できるように⇒正しい理解を

●町民・職員・ケアマネジャー・支援員等



町民とともに

- ④自然な形で活発化していく仕掛けづくりを
「楽しく、いきいきと」
- ⑤まずは、地域に出向くこと。
「地域の力」を引出し、後押しする。

**人のつながりが大きな力となる
地域づくり⇒町づくり**

人で支える町づくりを

支え合い

一人ひとりが輝いて

みんな笑って暮らすべし



町民とともに考え・学び・創り出す



未曾有の大震災…



感動！ 庁舎・診療所完成！



南三陸診療所



南三陸町役場



一丸となって頑張ります！



みなさんのご支援に 感謝です！

おわりに

千年に1度の大震災・・・

全国の皆様に支えられながら、1歩1歩前進しております。

長い道のりではありますが、町民とともに「新しい南三陸町」を創りあげて行きたいと思えます。

ご清聴ありがとうございました。

